

みなと神戸ーいきいきプラン



平成17年 2月
神戸市

みなと神戸ーいきいきプラン

1. はじめに-----	1
2. 神戸港が目指すべき姿について -----	2
3. 物流ゾーンを中心として -----	3
(1) 目指すべき姿 -----	3
(2) コンテナ貨物を中心とした物流機能の強化 --	5
(3) 在来型貨物の拡充、新規貨物の獲得 -----	7
(4) 海・陸・空の総合物流拠点の形成 -----	8
(5) 効率的・効果的なみなとの管理・運営 -----	9
(6) みなとの安全・安心・信頼の確保 -----	10
(7) 人と環境にやさしいみなとづくり -----	11
4. 親水ゾーンを中心として -----	12
(1) 目指すべき姿 -----	12
(2) 都心ウォーターフロントの構築 -----	14
(3) 兵庫運河ウォーターフロントの新たな活用 -	18
(4) その他のウォーターフロントの整備 -----	20
5. おわりに-----	21
6. みなと神戸ーいきいきプラン図-----	22
(参考) みなと神戸ーいきいきプラン 用語集 -----	23

1. はじめに

神戸港は、1868年の開港以来、日本を代表する国際貿易港として、わが国の経済の発展を支えるとともに、神戸市民の生活基盤、経済基盤として重要な役割を担ってきた。

しかし、近年、韓国、中国などアジアの近隣諸国の港の台頭など、神戸港を取巻く環境は大きく様変わりしており、新しい時代に対応したみなとへ変革することが求められている。

神戸市では、平成13年度に「神戸港21世紀懇談会」を設置して、神戸港を「物流ゾーン」と「親水ゾーン」の二つの地域に大きく分けて再構築し、秩序ある水域利用、土地利用を行うことにより、物流機能の効率化、強化を図るとともに、親水機能を拡充することで、総合的に神戸港の活性化を図ることとした。

これからの神戸港は、物流機能については、これまで蓄積したハード、ソフトの資産を有効活用することや、利用者の視点に立ったきめ細やかな対応、コスト・スピード・サービスの向上を行い、アジア有数の国際貿易港として、「活力」を生み出す。

また、親水機能については、メリケンパーク、ハーバーランド、HAT神戸のように、物流以外の新たな分野へ港の施設を利用転換することなどで、神戸流のライフスタイルの舞台として「賑わい」を生み出す。

そして、災害の経験を生かした「安全で安心、信頼できるみなと」、環境負荷の小さい物流システムや自然環境の再生などによる「人と環境にやさしいみなと」、市民、企業、行政など関係者が協働し「みんなでもりあげていくみなと」として、「世界からひと・ものが集まるいきいきとした「みなと神戸」」を実現していく。

「みなと神戸ーいきいきプラン」は、長期的な視点に立ちながら概ね10年後の「神戸港が目指すべき姿」を示し、「みなと神戸」を「活力」と「賑わい」のある「いきいき」とした空間とするための指針として策定するものである。

2. 神戸港が目指すべき姿について

「活力」と「賑わい」のある「みなと」

物流ゾーンを中心に

－西日本のハブ港としての 機能強化！－

蓄積したハード、ソフトの活用・改良による国際水準の港湾機能を備えた「みなと」

充実した海・陸・空のネットワーク、生産・加工機能により多様な物流ニーズに対応できる「みなと」

アジア有数の国際貿易港として世界の貨物が集積する「みなと」

親水ゾーンを中心に

－みなと神戸流のライフ スタイルを求めて！－

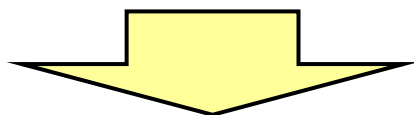
市民が海に親しみ、海辺のライフスタイルを体感できる「みなと」

市民が愛着を持ち、誇れる「みなと」

来訪者が集い、賑わう、魅力ある「みなと」

安全で安心、信頼でき、環境にやさしい、

みんなでもりあげる協働の「みなと」



世界からひと・ものが集まる
いきいきとした「みなと神戸」

3. 物流ゾーンを中心として

(1) 目指すべき姿

－西日本のハブ港としての機能強化！－

蓄積したハード、ソフトの活用・改良による国際水準の港湾機能を備えた「みなと」

充実した海・陸・空のネットワーク、生産・加工機能により多様な物流ニーズに対応できる「みなと」

アジア有数の国際貿易港として世界の貨物が集積する「みなと」

成長を続ける東アジアにおいて海上輸送量が飛躍的に増加している中、わが国の主要港の地位は相対的に低下している。とりわけ、阪神・淡路大震災以降の神戸港では、産業構造の変化や港間競争の激化もあり、取扱貨物量の低迷が続いているが、依然として日本経済において果たす役割は大きいものがある。このような状況の中、神戸港においては活力あるみなとを取り戻すことを主眼とし、コスト・スピード・サービスの向上により、西日本のハブ港としての機能を強化し、神戸港を物流面における「いきいきとしたみなと」に新生していく。

蓄積したハード、ソフトの活用・改良による国際水準の港湾機能を備えた「みなと」

これからの神戸港は、これまで蓄積したハード、ソフトの資産を有効活用することにより、低廉で迅速かつ多様な物流サービスが提供可能な「国際水準の質の高い港湾機能を備えたみなと」を目指す。そのため、コンテナ貨物を中心とした物流機能の強化や在来型貨物の拡充、新規貨物の獲得などに取り組む。

充実した海・陸・空のネットワーク、生産・加工機能により多様な物流ニーズに対応できる「みなと」

神戸港は、既存の充実した海上輸送網や高速道路網、鉄道輸送網に加え、神戸空港の開港により、航空サービスも含めた輸送ネットワークを有することとなる。これらのネットワークを活用するとともに、背後地にこれまでの流通機能に加え、新たな時代に対応した生産・加工機能を積極的に導入することにより、利用者の多様な物流ニーズに対応したサービスを提供する「使いやすいみなと」を目指す。そのために、海・陸・空のネットワークを活用した総合的な物流拠点の形成、効

率的で効果的な管理・運営の確立、みなとの安全・安心・信頼の確保などに取り組む。

アジア有数の国際貿易港として世界の貨物が集積する「みなと」

アジア有数の国際貿易港である神戸港は、「国際水準の質の高い港湾機能を備えたみなと」、「使いやすいみなと」を目指すことにより、官民が協働で「いきいき」として活力ある「みなと神戸」を実現する。

(2) コンテナ貨物を中心とした物流機能の強化

コンテナターミナルについては、神戸港が有する、航路、サービス、地域的役割などを十分に踏まえながら「阪神港」として大阪港と連携し、スーパー中枢港湾への取り組みを進め、再編・集約化・効率化を行う。これらの取り組みにより、港湾物流のコスト・スピード・サービスを向上させ、西日本のハブ港としてコンテナ貨物を中心とした物流機能の強化を図ることで、港の活性化を実現すると共に、西日本の地域社会・経済の発展に貢献する。

次世代高規格コンテナターミナル（メガターミナル）の形成と効率的なターミナル運営

- ・ 既存コンテナターミナルを有効活用し、ポートアイランド（第2期）と六甲アイランドにおいて、アジア主要港に比肩するメガターミナルを形成する。
- ・ 六甲アイランド南の利用計画については、今後、長期的な社会経済の動向を見ながら検討を行う。
- ・ メガターミナルにおいては、コンテナ船の大型化に対応し、大水深化・高規格化を図る。
- ・ 港湾コストの削減やサービスの向上など、アジア有数の国際貿易港としての競争力を強化し、基幹航路の維持・拡充を図る。
- ・ ターミナル運営規模の拡大によるスケールメリットを活かし、施設稼働率の向上、コストの低減を図り、ターミナルの効率的な運営を実現する。

内航フィーダー網の充実・競争力強化による瀬戸内・九州貨物の神戸港への集積

- ・ 母船との効率的な接続、および内航フィーダー船のコスト低減のため、着岸バースのあり方、ターミナル間の陸上移送の仕組みについて検討する。
- ・ 瀬戸内・九州諸港と連携を図り、韓国フィーダー等を凌ぐ内航フィーダーサービス網・システムを構築することにより、西日本に事業所や物流拠点を持つ企業の国際競争力の維持・強化に貢献する。
- ・ 内航フィーダー航路を維持・拡充するため、内航船へのインセンティブを充実させ、モーダルシフトを推進する。
- ・ 内航海運にかかる規制の緩和を要望し、内航フィーダーの競争力強化を図る。

みなとのIT化の推進による物流の効率化

- ・ ICタグやゲートにおけるナンバープレート自動読み取りシステム、ゲート混雑情報の提供など、ITを活用することによるゲートスピードの短縮や、トラクタヘッドの回転率の向上を図り、ターミナルへの搬出入の効率改善を進める。

- ・ 港湾物流情報プラットフォーム、ワンストップサービスの活用による港湾諸手続きの簡素化・統一化を進めるとともに、ポータルサイト、貨物位置情報提供システムの構築を進めるなど、官民協働で、港湾利用者の利便性向上を図る。
- ・ 神戸港と大阪港は、「阪神港」として連携し、共通 I T 基盤の構築に取り組む。

コンテナ船の大型化に対応する、航行の安全、操船の容易さの確保

- ・ 船舶の離着岸に必要な十分な大きさをもった泊地や、入出港しやすい航路を確保する。

(3) 在来型貨物の拡充、新規貨物の獲得

コンテナターミナル以外の公共ふ頭については、青果物、プラントなどの在来型貨物に加え、中古自動車、中古建機、リサイクル関連などの新たな貨物を取扱うふ頭としての役割を担っている。これらの公共ふ頭においては、神戸港の立地特性や蓄積したハード、ソフトの資産を有効活用することに加えて、新規需要に対応した土地の利用転換を推進することなどで、さらなる取扱貨物の掘り起こしを図る。

高度な荷役・梱包技術などのノウハウや港湾の立地特性の活用

- ・ 充実した荷役機器や、高度な荷役・梱包技術のノウハウなど、蓄積したハード、ソフトの資産を時代のニーズに合わせて有効活用し、新たな貨物需要の掘り起こしを図る。
- ・ 市街地に近接するとともに、高速道路、内航海運、鉄道輸送による多様なネットワークにより背後圏と密接に結ばれている立地特性を活かし、新たな貨物需要の掘り起こしを図る。

フェリー・RO/RO 船輸送の活用

- ・ 神戸港の利便性向上と活性化を図るため、瀬戸内海沿岸、九州方面への内航フェリー・RO/ROサービスや国際フェリーサービスを活用し、貨物需要の掘り起こしを図るとともに、モーダルシフトの観点から環境負荷の低減にも貢献する。

既存ストックの有効活用、利用転換

- ・ 利用頻度の低い岸壁については、その岸壁ごとの立地特性や利用状況を勘案し、利用転換も含め、その背後用地とともに有効活用を促進する。
- ・ 陳腐化した港湾施設の再利用を図っていくなど、官民一体となって既存ストックの有効活用を促進する。
- ・ 現在は中古自動車や中古建機などの需要が伸びているが、今後も、将来の需要の伸びが期待できる貨物を公共ふ頭へ集積させ、ストックヤードとしての活用を図ることで、船舶を誘致する。
- ・ 自動車リサイクルなど静脈物流拠点としてのリサイクルポート施策を推進する。

(4) 海・陸・空の総合物流拠点の形成

既存の海上輸送網、高速道路網、鉄道輸送網に空港機能を加えた充実した海・陸・空のネットワークを有効活用し、荷主の多様な物流ニーズに対応する輸送手段を提供するとともに、港頭地区には総合ロジスティクス拠点の形成を目指す。

また、背後地域に新たな貨物を発生させる企業の集積を促進する。
これらにより、新たな雇用の創出を図る。

道路アクセスの強化

- ・ 神戸空港の開港を踏まえ、ポートアイランドの東側臨港道路など、臨港道路の機能増強を図る。
- ・ 広域道路網としての大阪湾岸道路（西伸部）の早期整備を要請する。

鉄道輸送網の活用

- ・ 神戸貨物ターミナル駅のメリットを十分活用するため、船舶から鉄道への積み替えをスムーズに行うことができる仕組みの検討など、連携の強化を図る。

神戸空港の活用

- ・ 付加価値の高い貨物の輸送や緊急輸送など、荷主の様々な物流ニーズに対応する輸送手段を提供するとともに、ポートアイランド（第2期）を中心に進められている神戸医療産業都市構想に対しても、医薬品・医療機器・材料等の輸送など物流面で寄与する。
- ・ 貨物を海・陸・空それぞれの輸送手段で分担する仕組みなど、複合一貫輸送システムの構築について検討し、新たな物流形態の形成を図る。

貨物を発生させる企業の集積

- ・ 神戸港の利便性や、総合保税地域制度の活用により、西日本全域をカバーする物流倉庫、輸出品配送センターや生産・加工施設などを積極的に誘致する。その際、港頭地区や内陸部の産業用地において、用途に応じた用地の提供を図る。
- ・ 官民が一体となった取り組みにより荷主のニーズを把握し、新たな貨物を発生させる企業の集積を促進する。

総合ロジスティクス拠点の形成

- ・ 海・陸・空の充実した輸送ネットワークと港内における物流関連企業の集積により、多様な物流ニーズに対応できる利便性の高い物流拠点の実現を図る。

(5) 効率的・効果的なみなとの管理・運営

港の活性化のため、官民一体となった効果的なマーケティングを積極的に行い、企業の誘致・貨物の集積を積極的に進めるとともに、施設の稼働率の向上、効率的・効果的なみなとの管理・運営のあり方について検討する。

神戸港の優位な特徴をPR

- ・ 充実した外航・内航航路網とサービス頻度、背後圏と密接に結ばれている道路網などのアクセス面での利点、充実した荷役機器や高度な荷役・梱包技術のノウハウ、企業の港頭地区への進出資格要件の規制緩和など、神戸港の優位性についてPRし、官民一体となり、国内外への誘致活動を積極的に行う。
- ・ 荷主企業のニーズや貨物の分析に基づき、効率的・効果的なポートセールスの強化を図る。
- ・ 神戸港が市民経済において果たす役割など、みなとと市民との関わりについて積極的に広報を行い、みなとの活動について市民の理解を得ることや、みなとで働く人材育成の強化、働きやすいみなとづくりなど、みんなでもりあげる協働のみなとを実現させる。

効率的・効果的なみなとの管理・運営

- ・ 神戸港内の管理体制や港湾料金の見直しを図るなど、利用者の視点に立った、使いやすいみなとを実現する。
- ・ 神戸港と大阪港の広域連携を推進するため、共通IT基盤の構築や、船舶の入港にかかる料金等の一港化、空コンテナを有効に運用する仕組みづくりなどに取り組む。

(6) みなとの安全・安心・信頼の確保

災害の経験を活かした防災港湾づくりを進め、災害時も物流機能を安定的に提供できるようみなとの信頼性の向上を図るとともに、災害時に市民生活等を支援する拠点としての形成を図り、安全で安心、信頼できるみなとを目指す。

地震に対する取り組み

- ・ 災害時においても、国際コンテナ輸送機能や複合一貫輸送機能を維持するため、コンテナターミナルやその他の公共ふ頭において、必要な耐震強化岸壁を確保する。
- ・ 災害時の市民の安全と生活を守るため、港湾空間の活用により緊急時の避難場所、海上輸送拠点、物資等の集積地としての機能を確保するとともに、港湾へのアクセスルートの確保を図る。

高潮・津波に対する取り組み

- ・ 防潮胸壁など、高潮・津波時の安全性確保に必要な施設の適切な整備、及び、上屋、倉庫など港湾施設の防災機能の向上を、環境・景観・親水性等に配慮しながら進める。
- ・ 緊急時に迅速、的確に対応できる組織体制づくりを推進する。

セキュリティに関する取り組み

- ・ 改正SOLAS条約に対応し、テロなどに対する国際水準のセキュリティを確保する。

安定した港湾機能を維持するための取り組み

- ・ 荷役機械をはじめ、諸施設の維持補修に努め、トラブルのない常に安定的かつ円滑な港湾機能を確保する。
- ・ 安全かつ円滑な船舶の離着岸、けい船ができるように、防波堤、波除堤の効果も検討して、港内波浪の静穏を確保する。

(7) 人と環境にやさしいみなとづくり

みなとを環境保全・創造の拠点として積極的に活用し、自然環境の再生を進めるとともに、環境負荷の小さい物流システムへの移行により、人と環境にやさしいみなとづくりへの取り組みを進める。

人と環境にやさしいみなとづくりへの取り組み

- ・ 港湾施設において、景観に十分に配慮するとともに、より環境にやさしい構造への転換を積極的に検討するなど、人と環境にやさしいみなとづくりに取り組む。
- ・ 六甲アイランド南において、環境に配慮しつつ、フェニックス事業による廃棄物処分場、神戸港内の浚渫土砂の処分場としての役割を確保する。

モーダルシフトの推進

- ・ 瀬戸内海沿岸地域から集積する貨物について、陸上輸送からより環境負荷の小さい内航フェリーやRO/RO船などによる海上輸送へのシフトを推進する。
- ・ モーダルシフトの観点から環境負荷の低減に貢献するため、トラック輸送から海上輸送や鉄道輸送へシフトさせる仕組みの検討を推進する。

自然環境再生への取り組み

- ・ ポートアイランド（第2期）や神戸空港島では、環境創造型護岸、人工ラグーンによる多様な生態系の形成促進などに着手しており、今後も自然環境の再生に取り組んでいく。

4. 親水ゾーンを中心として

(1) 目指すべき姿

— みなと神戸流のライフスタイルを求めて! —

市民が海に親しみ、海辺のライフスタイルを体感できる「みなと」

市民が愛着を持ち、誇れる「みなと」

来訪者が集い、賑わう、魅力ある「みなと」

神戸港は、大阪湾の青い海と六甲山地の緑を背景にした世界有数の美しい港である。幾多の歴史的沿革を持ち、港とともに発展してきた東西に広がる街並みとポートアイランドや六甲アイランドなどの海上都市は、神戸独自のウォーターフロントを形成している。

来訪者にとって訪れる街は、そこに住む市民のライフスタイルを体感する場である。開港以来、港と共に発展し、港を通じて海外の文化を積極的に取り入れてきた「みなと街神戸」では、ファッション、グルメ、西洋館、芸術、文化、スポーツといった「神戸独自のハイカラ文化＝神戸らしいライフスタイル」を形成してきた。近年、この神戸らしさが都市文化の平準化等により、特異性を失いつつある。

「親水ゾーン」においては、かつて港の機能を支えてきた港湾施設を、新たな神戸流のライフスタイルを体感できる場として利用するなど、みなとの「賑わい」を生み出す場として活用する。そして、市民が海辺に愛着を持ち、潤いのある生活空間を構築し、それを美しく見せる。それに魅せられて来訪者が集い、賑わう、魅力ある空間が生まれ、都市に活力を与え、市民と来訪者の交流の輪が広がることになる。このような親水ゾーンの整備により、都市の活性化とともに、みなとが「観光交流都市・神戸」の一翼を担うことを目指す。

市民が海に親しみ、海辺のライフスタイルを体感できる「みなと」

親水ゾーンの主体は市民である。市民が、単に水際に接近できるだけでなく、新たな海辺に関わるライフスタイルを構築する場である。それぞれの地域の特性を活かし、これらをネットワーク化することにより、魅力的な海辺の展開を図る。

新しい親水ゾーンの整備では、都心の南に位置するハーバーランドからHAT神戸に至る地域を「都心ウォーターフロント」として、また歴史的資産を多く有する兵庫運河周辺を「兵庫運河ウォーターフロント」として、重点的に整備し、魅力的な市民生活の実現を目指す。

市民が愛着を持ち、誇れる「みなと」

親水ゾーンで展開される市民生活は、既存の市民生活に海辺の楽しさを加え、多様で変化に富んだものとする必要がある。みなとこうべ海上花火大会やルミナリエに代表されるような市民や観光客に親しまれるイベントを増やし、新しい海辺のライフスタイルを構築することにより、市民が自らの生活の実感を深め、愛着と誇りを持つ「みなと」とする。

来訪者が集い、賑わう、魅力ある「みなと」

市民が誇りに思う生活と都市活動は、市街地から対岸のポートアイランドを望む景観や、ポートアイランドや神戸空港島など海側から市街地、六甲山を望む景観、豪華客船や練習帆船、港内遊覧船の行き交う風景、神戸の夜景や、海の潮風を受けながら異国情緒を感じられるロケーションなど「みなと神戸」の特徴ある景観と一体となり、海辺の風景となる。このような風景は、来訪者にとっても見て楽しく、自ら加わりたくなる風景である。さらに来訪者がこの風景に加わることによって、より魅力的なものとなり、更なる来訪者を生む。「親水ゾーン」の整備では、このように、来訪者が集い、賑わう、魅力的なものとなることを目指す。

(2) 都心ウォーターフロントの構築

都心ウォーターフロントにおいては、神戸の新しい拠点地区としての整備を図り、新たな海辺のライフスタイルを構築する。そこでは市民と共に来訪者が一体となって、安全で安心な市民生活・都市活動を体験できることを目指す。そのため、ウォーターフロントに近づきやすく、回遊でき、港の風景を満喫できる親水空間を構築する。

ハーバーランドからメリケンパークにかけての地区については、すでに親水空間として再開発が進められている。民間活力を積極的に導入しながら集客施設の立地誘導を図っているが、一部リニューアルの必要も生じている。また、HAT神戸は新たな都心の核として現在再開発が進められており、JR貨物神戸港駅跡地についても、神戸震災復興記念公園を整備中である。

神戸都心に最も近い新港突堤西地区は、明治から大正にかけて整備された櫛型突堤で、神戸港の発展に多大な貢献を果たしてきた。現在も港湾活動が行われているが、事業者と調整し、段階的に親水空間として利用転換を進める。

ポートアイランド西地区のコンテナターミナル跡地(北側ゾーン)については、都心への近接性と海辺の特性を活かして、魅力ある海上都市の形成を図る。

市民や観光客で賑わうウォーターフロント

- ・ 神戸の中心的ウォーターフロントとして、都心と隣接し、海辺の景観を持った立地特性を活かし、ユニバーサルデザインにも配慮した、若者から高齢者まで様々な人が、新しく多様で海辺の市民生活と都市活動を創造・体感できる空間の創出を図る。
- ・ 新港突堤西地区では、みなと神戸の象徴である櫛型突堤や石積み護岸などの歴史的資産を活かし、突堤ごとに特色ある整備をするなど、海を身近に感じられる空間の創出を検討する。

既存倉庫等の建物も利用しながら、新しい職・住・遊のそろった地区として、業務・宿泊・商業機能等が複合する新たな拠点を検討する。例えば、世界の海産物が楽しめるレストラン街や、オープンスペースを利用したスポーツ広場、ランドマークとなるモニュメント、海辺の屋台街など、市民生活を主体にしながら来訪者との交流が図れる施設が考えられる。

- ・ ポートアイランド西地区では、地域に開かれた大学を中心に、学び、交流し、憩うことができる魅力にあふれたウォーターフロントを形成し、地域の活性化に貢献する。水際線付近では、旅客船ふ頭と緑地が一体となった広い空間

を利用して、様々なイベントが常時開催される交流空間の創出を図るとともに、海からの夜景を望むスポットとしての整備を図る。

近づきやすいウォーターフロント

- ・ 北野、旧居留地、南京町等の観光地からウォーターフロントへの案内標示の整備、フラワーロード、京町筋、メリケンロード、ハーバーロードなどの海へのアプローチロードの個性化、ボストンで行われている「歴史と観光の道」を標示したフリーダム・トレイルのような観光客誘導サインの導入など、市街地からウォーターフロントに至る動線の強化を図る。
- ・ 国道2号の横断や高架道路については、心理的、景観的な阻害要因となっているが、ウォーターフロントを身近に感じることができるよう、関係機関と連携して、エレベーターやエスカレーター付きの立体横断歩道橋や、交差点付近での広場等の整備、誘導施設の設置など、改善に努める。
- ・ 三宮駅や元町駅などの鉄道駅や各観光地からウォーターフロントへ移動しやすいよう、シティー・ループやバス路線の拡充など、公共交通機関によるアクセス強化を図る。

動きやすいウォーターフロント

- ・ ハーバーランド、中突堤、メリケンパーク、新港突堤西地区、HAT神戸など地区ごとに個性的な整備を図るとともに、各地区を相互連携することによって回遊性と連続性の強化を図り、動きやすいウォーターフロントを目指す。
- ・ 水際線は、景観を重視した整備を目指し、ベンチや木陰のあるプロムナードとして、デザイン等を検討するとともに、「夜のみなと」の演出として電飾化等、魅力的な整備についても検討する。
- ・ みなとの施設への案内標示や、みなと以外の主要な観光施設への案内標示を充実させる。

豪華客船に出会え、「みなと神戸」を満喫できるウォーターフロント

- ・ 旅客船バースを再配置し、市民や観光客が豪華客船や練習帆船などを身近に親しむことができるようにする。また、豪華客船などの入出港情報や港のイベント情報などを積極的に発信し、みなとの風景に出会える機会の増加を目指す。
- ・ 港内遊覧船、フェリー、客船などに、乗ったり、見たりする機会を通じて、船によって交流できる空間の創出を図る。
- ・ 都心ウォーターフロントの各拠点や神戸空港などを結ぶ、市民や観光客が気軽に利用できる、海上タクシーなどの導入を検討する。
- ・ レストラン船やホテルシップの係留、大型クルーザー等のマリーナ整備など、